

# 群馬県中学校体育連盟ソフトテニス部大会出場規定

(令和7年4月1日施行)

群馬県中体連ソフトテニス部

## (1) 選手

- ① ユニフォームは、(公財) 日本ソフトテニス連盟の着用基準を満たしたものとする。ただし、学校指定の体操服は可とする。
- ② テニスシューズを着用する。意図的に靴や靴紐の左右を色違いにすることにはいけない。
- ③ ハチマキには、正面に特別な文言や記号を後から記入もしくは印刷し、使用してはいけない。ただし、ハチマキの端の部分に「学校名・名前」を記入してもよい。帽子、サンバイザーもこれに準ずる。
- ④ 所有者を表示する場合を除き、服装・用具類への文字や記号の書き込み、印刷、刺繍は禁止する。また、選手の腕等へのペイント、文字の書き込みは禁止する。(スポンサーのロゴも不可)
- ⑤ ミサガや磁気ネックレスや腕時計などの装飾品を身につけての出場は禁止する。
- ⑥ 長袖アンダーシャツ・ロングアンダータイツ(ステッチも含めて)、サポーター、グローブ、テーピングを使用する場合は単色とする。また、別色ラインなどは不可。メーカーロゴは日本ソフトテニス連盟の基準に従い、26cm<sup>2</sup>以内とする。
- ⑦ 特別な医療器具を使用するときには、所定の医療用具使用届に必要事項を記入し、大会当日受付に提出する。
- ⑧ 背中 of ゼッケンを各校で作成し、背中の中央につける。ただし、四隅を留めるものとする。また、すでにプリントされている文字は隠すように留めつけるものとする。

(ア) B5サイズ横(縦:約18cm、横:約26cm)の白地の布などに、都県名、姓、所属(学校)名を記述する。県の「県」の文字は付けられないものとする。

(イ) 《例1》のように(公財)日本ソフトテニス連盟で示されている三段とする。

(ウ) 姓名文字は、「漢字」、「ひらがな」、「カタカナ」を使用し、文字色は「黒」とする。

(エ) 都県内で同名の中学校がある場合には、区別をするために中学校名の表記の工夫をしてもよい。

(オ) 文字の位置は《例1》どおりとし、同一校に同姓の選手がいる場合には、《例2》のように名前の一部を付け加え、区別がつけられるようにする。

(カ) 中学校名が第一・第二中学校や東・西・南・北中学校のような場合には、学校名をわかりやすくするために、《例2》のように学校所在地を付記してもよい。

(キ) 学校名が「〇〇中学校」の場合は「〇〇中」と表記し、それ以外の「〇〇学園中等部」等の学校については、「中」をつけずに、適当な表記で表現する。地域クラブ活動の場合は、《例3》のようにプログラム記載の名称とする。

《例1》群馬県 前橋市立南橋中学校

|     |                |
|-----|----------------|
| 群馬  | 1/4 県名         |
| 蜂須  | 2/4<br>姓(名の一部) |
| 南橋中 | 1/4 中学校名等      |

《例2》群馬県 渋川市立渋川北中学校

|        |                |
|--------|----------------|
| 群馬     | 1/4 県名         |
| 多賀谷卓   | 2/4<br>姓(名の一部) |
| 渋川北中学校 | 1/4 中学校名等      |

《例3》群馬ソフトテニスクラブ

|       |                |
|-------|----------------|
| 群馬    | 1/4 県名         |
| 長沼    | 2/4<br>姓(名の一部) |
| 群馬クラブ | 1/4 中学校名等      |

\*プログラムも「群馬クラブ」にする。

- ⑨ 選手変更がある場合は、受付で職印(地域クラブ活動は監督の私印)付きの参加申込書の提出時にその旨を伝える。個人戦の場合、1名までの変更を認める。2名とも出場不可能になった場合は棄権とする。1チームから2ペア以上参加申込があり、2ペアの1名ずつ出場不可能となった場合には、それぞれのペアに予めエントリーされていない選手を補充するか、都市順位の上位のペアに統合して1ペア作り、下位のペアを棄権にするかのどちらかとする。

## (2) 監督・外部指導者(コーチ)

- ① ベンチ入りおよび開会式・閉会式・表彰式に参加するときは、上下ともスポーツウェアを着用する。
- ② テニスシューズを着用する。
- ③ 「監督」・「コーチ」ゼッケンを左胸につける。ネームホルダーは不可とする。
  - (ア) 大きさは縦:約 10cm、横:約 15cmとする。文字の色や布地の色、材質は問わないが、所属名等文字がはっきりわかるようにしておく。
- ④ ベンチ入り
  - (ア) 監督・コーチは指定させたベンチに着席する。(雨天時は立っていてもよい。)ただし、私有の椅子の持ち込みは禁止とする。団体戦において2面進行になった場合、ベンチを中央に移動してもよい。
  - (イ) 団体戦のベンチ入りは、監督またはコーチのどちらか1名とする。1回戦ごとに交代してもよい。
  - (ウ) 個人戦のベンチ入りは、監督またはコーチのどちらか1名とする。ただし、2ペア以上出場しているチームで許可を得ている場合は、それぞれのペアに対し、1名の監督またはコーチのベンチ入りを認める。また、試合ごとに交代するのを認める。
  - (エ) 監督・コーチはコート入場時に、他のコートにおいて同チームのペアがマッチ中のため入場できないときは、マッチの途中からベンチ入りを認める。ただし、監督・コーチのベンチ入りは1マッチのみとし、試合途中でベンチから出た場合、再びベンチに入ることは認められない。
  - (オ) コーチングは、チェンジサイズ・ファイナルゲームの前に認めるが、前のゲームの終了から1分以内に次のプレーに入るものとする。コート外からコーチングと受け取られるような声かけはしない。また、ベンチ入りしている監督・コーチもチェンジサイズ時以外はコーチングと受け取られるような声かけはしない。
  - (カ) 中学校のコーチは、大会要項に記載された資格を有し、校長に承認され、日頃からその学校の指導をしていることが条件である。参加申込の際、参加申込書に記入し競技部委員長から承認を受ける。ただし、大会中に教育的配慮に欠ける不当行為があった場合は退場していただくことがある。
  - (キ) 地域クラブ活動の監督・コーチは(公財)日本スポーツ協会「コーチI」以上の資格を有し、日本ソフトテニス連盟・群馬県ソフトテニス連盟に登録し、かつ群馬県中体連に登録している必要がある。

## (3) その他

- ① 選手心得
  - (ア) 指定の位置で待機し、放送に注意し試合進行に支障がないようにする。試合後は相手校へのあいさつはせず、すぐにベンチを空けること。
  - (イ) プレーヤーの過度の掛け声、相手へ威圧・挑発・相手を傷つけるような態度は禁止する。また、審判のコール時には、発生をやめる。
  - (ウ) 選手は、競技中(チェンジサイズ時を含む)、他のコートに移動してはいけない。
  - (エ) 審判の判定には、異議を申し立てはできない。また審判は選手等のアピールに惑わされることなく、自らの判断によって公正に行う。
  - (オ) 大会に出場する選手は、きちんと審判ができるようにしておくこと。また、ジュニア審判有資格者は、審判証を持参する。
- ② 応援
  - (ア) 応援用の部旗、横断幕等を使用する場合は、大会本部指定の場所に掲げること。地の色は原則白以外のものを使用する。
  - (イ) 応援は、プレーや大会運営の支障にならないようフェアな態度で行う。集団での掛け声応援は過度にならないようにするとともに、インプレー中の応援はしない。相手を不愉快にさせたり、傷つけたり、さらには相手への威圧・挑発など相手のプレーに支障をきたす応援をした場合、1回目は注意、以後度重なる場合は応援団の退場、もしくは選手を失格にすることがある。
- ③ 会場
  - (ア) どの会場も駐車場には限りがあるので、できるだけ乗り合わせでくるとともに、駐車票をダッシュボードの上など外から見える場所に掲示する。なお、開場時間は必ず守ること。
  - (イ) 会場を適切に使用し、美化に努めるとともに、ゴミはすべて持ち帰ることとする。

大会は要項・出場規定・競技上の注意・諸注意に基づき運営されるので、大会関係者(選手・監督・コーチ・応援者・保護者)はそれらを熟読の上、大会に臨むこと。それらに違反することが発生した場合、チームまたは選手に警告を与える。

